



追手門学院大手前中・高 ロボット世界大会出場決定 中学生が開発した手話ロボット 世界デビュー！

手話が使えない人でも耳の不自由な人とコミュニケーションがとれるようにしようと、追手門学院大手前中・高等学校（大阪府中央区、校長：木内淳詞）のロボットサイエンス部の中学生チームが言葉を手話に翻訳する「手話ロボット」を開発しました。11月に中米・コスタリカで開かれる国際的なロボットコンテスト WRO の世界大会に日本代表として出場し、手話ロボットを世界にお披露目します。

手話ロボットを開発したのは、追手門学院大手前中・高等学校の中学1～3年生の5人です。中学生たちは WRO の国内大会のオープンカテゴリーに出場し、「サステナビリティ(持続可能性)のためのロボットを製作せよ」というミッションに対して、開発した手話ロボットで大会を勝ち上がりました。9月17日には東京で決勝大会が開かれ、高校生チームも含む22チームの中で1位となる最優秀賞を獲得し、11月にコスタリカで開かれる国際大会に出場します。本校のチームが世界大会に出場するのは4大会連続です。

生徒達は世界大会に向けて手話ロボットの調整や、ロボットの説明に必要な英語でのプレゼンテーションの練習に励んでいます。

■手話ロボット

ロボットは WRO のルールの下、市販のロボットキットで製作する。予めいくつかの言葉をロボットに登録し、健常者がその言葉を発声すると、人の手の形をした部分に信号が伝わり、指文字を表現する。高さ約50センチ。

■WRO (World Robot Olympiad) とは

市販のロボットキットを利用してロボットを製作し、プログラムで自動制御する技術を競う国際的なコンテスト。科学技術振興機構が認定する国際科学コンテストの1つで、毎年開催される。

2004年、シンガポール国立サイエンス・センターの発案により、13ヶ国が参加して第1回 WRO が開催。2015年には55の国と地域から22,000チームが参加。日本は第1回から参加し、世界大会への参加者を選抜する国内大会は、各県での予選会を経て、決勝(全国)大会が開催される。国内参加チームは昨年の大会で1400を超える。

WRO の世界大会である WRO 2017 コスタリカ国際大会」は、2017年11月10日～12日で開催。



手話ロボットを開発した中学生チーム



実装済の手話ロボット



手話ロボット

この資料の配付先：大阪教育記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課

TEL: 072-641-9590

谷ノ内・足立